



9月号

学校だより

令和5年8月28日

横浜市立南小学校

校長 薄田 秀明

「防災の日を考える」

がっこうちょう うすだ ひであき
学校長 薄田 秀明

38日間の夏休みを終え、学校にも元気な子どもたちの声がかえってきました。この夏は猛暑が続き、屋外の活動も考えながら過ごしたのではないのでしょうか。遅くなって帰ってきた子どもたちが、さらに成長していくことを想像するととてもわくわくします。10月の運動会に向けての取組みも始まりますので、水分補給や活動時間を考慮しながら進めてまいります。

さて、9月1日は「防災の日」です。大正12年9月1日に関東大震災が発生し、今年で100年になります。横浜でも大きな被害がでました。9月1日が防災の日と決められたのは、このことが理由の一つになっています。みなさんも行ったことのある山下公園の下には当時震災で崩れた建物のレンガや石材などのがれきが埋まっています。大量に出たがれきの処理は手作業で行っていたので、遠くに運べず、近くの海を埋め立てるしかなかったようです。

本校は、この時期に「総合防災訓練」を実施しております。子どもたちの命を守ることを最優先にした避難計画を立て、訓練を実施しています。これまで実施してきた避難訓練の様子から、本校の子どもたちはきちんと約束を守り、避難をすることができています。学校でみんなと過ごしているときは、訓練を生かした行動ができればよいのですが、災害はいつ、どこで起こるかわかりません。登下校中や自宅で過ごしている場合などに起こることも考えられます。「防災の日」をきっかけに、地震が起きた時の行動についてご家庭で相談したり、話し合ったりする機会を設けてはいかがでしょうか。

いざというときには、まず大切なことは「自分の命」を守ることです。机の下にもぐって身の安全を確保したり、頭部を何かで保護したりするなどは、学校でも子どもたちは訓練していることです。地震が収まった後の避難行動については、場に応じた行動が必要になってきます。そのためには地域の様子やいざというときの避難場所なども知っておく必要があります。横浜市のホームページには津波避難にかかわる情報をはじめとして、防災にかかわる様々な情報が示されており、中には子ども向けのものもあります。ご家庭で防災について話し合う際にも参考になるものもあると思います。

冷静に判断し、行動することは大人でも難しいことと思います。ご家庭で地震が起こった時のことについて話す機会を設けていれば、いざというときに子どもたちはその話を思い出し、行動に役立てることができると信じています。

人間は自然災害の前では無力なこともあります。だからこそ、生活を守るために日ごろからいざという時のための心構えや備えが必要なのだと思います。

前期後半が今日から始まります。保護者の皆様、地域の皆様、8・9月も本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。